

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、
次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 8 回 石清尾山古墳群調査会議
開催日時	平成 2 7 年 1 1 月 1 3 日(金) 9 時～1 7 時 (9 時から 1 5 時まで史跡石清尾山古墳群・稲荷山北端 1 号墳・稲荷山 1 号墳の現地視察、1 5 時 1 5 分から埋蔵文化財センターで会議)
開催場所	高松市埋蔵文化財センター 2 階 講座室
議 題	議題 1 稲荷山北端 1 号墳の調査成果について 議題 2 稲荷山 1 号墳の調査成果について 議題 3 事業計画について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	丹羽会長（香川大学名誉教授）、大久保委員（徳島文理大学教授）、森下委員（大手前大学教授）、水ノ江オブザーバー（文化庁記念物課文化財調査官）、山下オブザーバー（香川県教委文化財専門員）
欠 席 者	なし
傍 聴 者	0 人（定員 1 0 人）
担当課及び 連絡先	文化財課文化財調査係 8 2 3 - 2 7 1 4

審議経過及び審議結果

審議経過及び結果

議題 1 ～ 3 を設定し、主に委員から以下の内容の指導・助言を得た。

議題 1 稲荷山北端 1 号墳の調査成果について

事務局の主な説明

- ・ 1 トレンチで、北側に続く墳丘を構築する石材を確認。その石材が、直線的に北に延びていることなどから、古墳の形状は双方中円墳と考えられる。
- ・ 今回の調査で、北側の墳丘の北端は確認できなかった。古墳の規模を確定するための発掘調査が、次年度も必要と考えられる。
- ・ 円丘部では、少なくとも 3 段の段構造があることを確認。
- ・ 南側の方丘部で、少なくとも 2 列の石列があることを確認するとともに、南側の墳丘の南端が確定。

委員からの主な意見

- ・ 墳形などについての説明は問題ないと考えられる。ただし、円丘部の最外周の段は、北へ屈曲して連続する可能性も否定できないため、次年度にその点も確認することができる調査を計画すべきと考えられる。
- ・ 墳形に関する説明で用いた円丘部と方丘部の比率のデータは、特に峰山の古墳などは詳細な測量データではない。このため、今回の調査成果との比較で使用するならば、正確なデータを整えて検討すべきだ。
- ・ 次年度の調査予定について、前提として最小限の調査を心がけるべきだ。
- ・ 広い範囲で清掃を行い、重点的に転石除去を進める箇所を決める方が、より効率的に調査できると考えられる。

審議経過及び審議結果

議題2 稲荷山1号墳の調査成果について

事務局の主な説明事項

- ・測量調査の結果から、測量範囲には前方後円墳1基、円墳1基が存在すると考えられる。
- ・遺存する石材の配置や地形から、資料に示すとおり、墳丘の範囲を概ね推定することができる。
- ・測量調査で、ある程度、墳丘の範囲が推定できたことから、今回の調査で史跡の追加指定に向けた調査を終了するという考え方は可能か。

委員等からの主な意見

- ・現地の様子から、2つの墳丘になることが確実に言える状態とは言い難い。墳丘の解釈に疑義が残るなら、最低限の発掘調査を計画して、その点を明らかにしておくべきではないか。
- ・遺存状態はこれまでの古墳よりも悪いと考えられるため、必要以上の調査を計画せずに、最小限の調査を検討すべきだ。

議題3 事業計画について

事務局の主な説明事項

- ・次年度は、稲荷山北端1号墳の調査を計画する。議題2で指摘された稲荷山1号墳の調査については、予算や人員等を考慮したうえで、事務局で検討し、結果を改めて報告する。
- ・次年度は、峰山の既指定の古墳等の整備を検討するための会議の設置等を計画している。

委員等からの主な意見

- ・追加指定までのタイムスケジュールを今までどおりの計画とするのか、検討すること。